

---

## 兵庫県伊丹市大字 寺本の小字地名

---

### ■寺本

「昆陽寺の所在地なるを以て其の名起る」と川辺郡誌に書かれているとおり、本村だけでなく、旧稲野村のほぼ中心部に昆陽寺があり、周囲の村から「行基さん」と親しまれている。1605年『摂津国絵図』には行基堂村（ぎょうぎどうむら）とある。

### ■昆陽寺

寺本村にある真言宗高野派西禅院末に属する伽藍にして、山号を崑崙山と称し、一に行基寺という。今同派に属する同村の正覚院、一乗院、遍照院、成就院等昆陽寺の塔頭たりしなり。草創は当地方開拓者として没す可からざる功績を積める行基大菩薩にして、天平年間聖武帝御寄進厚く、全山成就の際は堂塔伽藍雲表にそびえ、実に輪煥の美を成せるものなるも天正年間一度び祝融氏見舞う所となり、悉く烏有に帰せしを其後再建して今日に至れるものなり。今之が縁起由来に付き徒毫を揮うを罷め、信憑すべき史葉の記を抄録して其の証とせん。

伽藍開基曰く

摂州河邊郡有蘭若 乃行基菩薩開創之所五畿内四十九之一也 開山名行基性高志 泉州大鳥郡人百濟王之胤也 天智7年生甫15歳薙染 居薬師学瑜唯識等論於新羅慧基亦依義淵法師盆智證 受具足戒子徳光法師云々 時本朝45主 聖武帝天平5年就當地創精藍 手造薬師仏像以安之 又造11面大悲及梵釋二天像置殿中 時聖武帝聞其興造賜工若干 達成大伽藍號曰崑崙山昆陽寺 基本自開第地為莊田 収米1500石以為寺産 諸堂佛閣魏々堂々大振道化四來黑白帰仰者如市 時人咸称攝洲第一名利云 惜天正年間罹冠火悉為儘 後於遺趾 小字置本尊及開山像云々

延喜式卷第50に曰く

凡故僧正行基混陽院雜事者 攝津国司與別當僧共知儉校云々

而して本州の史跡類聚ともいうべき例の攝陽群談は曰く

聖武天皇御宇行基僧正開基本尊薬師仏ハ行基手造ノ霊像也今真言宗遍照院、正覚院、成就院、寶持院、勸請院、以上6字ノ僧守之、行基封ズルノ麗水アリ多ク幼童ノ輩ニ令除庖瘡難今猶存所設世之也と、

以上諸者の記する所により、創建当時の盛を窺知すべく、攝津第一の巨刹たりしを思うべし。如斯由緒深く保護厚かりし、大伽藍も、その法燈を紹ぐ火と無かりしにや独立の大本山たるに能はずして、百年後に出し空海の根據たる高野派に属し、而も現在にては昆陽寺に主任無く、正覚院の早川眞猛師之が兼務たり、方界の盛衰思えば蕭條の感に堪えず。(川辺郡誌より)

## 寺本の小字

### 1. 高安 (たかやす) 昆陽8・寺本4

昆陽寺および村の東に位置し、北から西国街道が西進して来るが、昆陽寺の手前で左折(南下)し、昆陽寺を迂回して(聖域を避け)、武庫川、西宮へと続く。現在国道171号線と飛行場線が合流する地域。

### 2. 東ノ口 (ひがしのくち) 寺本1

西に隣接する「東ノ町」との境界を西国街道が通り、それに沿って宅地がある。とともに、「東の集落」を構成しており、文字どおり、当村の東の入り口に位置している。

### 3. 半田 (はんだ) 寺本東1

この村の東端にあたり、縦長の地形に東に2ヶ所突き出た形をしている。北で昆陽村と境界をなし、境界に沿った形で、行基道、(昆陽井・南野川)が山田、堀池、南野へと東へ進む。

### 4. 松寄・松崎 (まつさき) 山田1

複雑な形をしている。「山田字見田」の飛び地がある。南東で。「山田字松崎」と隣接している。

### 5. 見田 (みた) 山田6

非常に複雑な形をしている。「山田字見田」の飛び地が2ヶ所ある。この村の南端となり、南東で。「山田字見田」と入り組んで、隣接している。北側は西国街道が通る。

### 6. 閼伽井 (あかい) 寺本1

比較的小さい地域である。西側の部分の南には西国街道があり、西国街道の西からの入り口となる。昆陽寺の正面の参道の入り口に当たる。井戸が存在し、「閼伽井の池」と呼ばれる小さな溜池・竹生地もある。

疱瘡(ほうそう=天然痘)によく効く靈験あらたかな井戸水として、『摂陽群談』(1701年刊)に登場する。「行基さん」が掘らせた井戸だということで、別名「行基井」とも呼ばれ、現在は公園として整備されている。

「閼伽」は梵語(ぼんご)で、仏前に供える水のこと、その井戸の名前がそのまま地名となっている。この井戸は、昆陽寺の接客に使われたり、雨ごいの神霊の儀式が行われたりした。また、西国街道に面している為、街道に行く旅人もこの水を飲んで一息ついたという。

### 7. 東ノ町 (ひがしのちょう) 寺本1・2

寺本村の「東の集落」の中心部になっている。昆陽寺の南にあり、参道の東側に正覚院の寺地、開墾地がある。正覚院の境内には江戸後期の国学者で本居宣長の門人だった夏目甕磨の墓がある。

### 8. 堂山 (どうやま) 寺本1・2・5

昆陽寺の所在地であり、また、昆陽寺の西に遍照院、東に墓地がある。通称行基さんと呼ばれており、1200余年前、聖武天皇の勅願所として天平5年(733)僧行基により建立された。往時は四町四面に七堂伽藍の備わった摂津第一の巨刹であった。現在の山

門は第二門で、第一門は、尼崎市の富松神社近くにあった。また、西国街道を通る交通の要所であったため、布施屋を設けて、人々を救済し、社会福祉事業の拠点となった。その後、天正 7 年 (1579)、織田信長が有岡城主荒木村重を攻略したときの兵火にかかり、本寺および 23 坊は、悉く消失した。江戸時代再建。規模が縮小されたとはいえ、伊丹市内において、広大な敷地を持つ。

#### 9. 出口 (でぐち) 寺本 1・2

昆陽寺と北西で接している。前述の「東ノ町」とともに参道西側を形成している。参道に向き合う形で、正覚院の前に成就院がある。成就院は昆陽寺塔頭の一で、行基が大願成就を祈願して最後に建立した寺である。北側、昆陽寺の前に昆陽井が流れている。南には西国街道 (山田地先) に接しており、「閼伽井」とともに当村の西国街道の西の「出入口」の位置にある。一乗院寺地も含まれる。

#### 10. 茶屋 (ちゃや) 寺本 1~3・池尻 1

南西に「山田字妙慶」の飛び地がある。現在、県道尼崎・宝塚線と国道 171 号線の交差点の北東地域。現在葬祭場。

#### 11. 妙慶 (みょうけい) 寺本 1

この村の西端となる。「山田字妙慶」の飛び地が 3 か所ある。現在スーパーマーケット。

#### 12. 丸町 (まるまち) 寺本 3・池尻 1

寺本村の西端に位置する。丸町という小字は、伊丹市域では御願塚村にあるが、御願塚字丸町は比較的面積が小さく、区域内に里道や水路はなく、両者の類似点・共通点は見当たらない。

#### 13. 山道 (やまみち) 寺本 3・池尻 1・2

東端に (北から南に) 池尻から崑崙山昆陽寺へ参詣する「行基道」があり、崑崙山へ行く道から、山道と呼ばれたのであろう。

(山道関連： 南野字山道、荒牧字山道・紫雲山中山寺)

#### 14. 今生野 (こんじょうの・いまいくの) 寺本 3・6

北から南に逆三角形の形をしている。前述の行基道に並行して、昆陽井が西野、池尻を通り、北西から南に流れている。池尻の飛び地「墓ノ前」がある。現在、花里小学校になっている。

#### 15. 花里 (はなさと) 寺本 3

北から南に「さつま芋」の形をしている。南半分は「西の集落部分」の一部をなしている。北半分は、現在、花里小学校になっている。

#### 16. 西中町 (にしなかまち) 寺本 2

昆陽寺のある「堂山」と東に接している。「西の集落部分」の中心部分で、北に村社「猪名野神社」がある。宮ノ前の猪名野神社の祭神は須佐乃男命であるが、寺本では高皇産霊尊を祀っている。

また、南東に一乗院がある。西に新田中野からの行基道 (一般県道寺本・川西線—妙見道・多田街道) があり、その起点となっているところから、昔から、重要な道であり、

「昆陽寺への人」の往還の多さ（新田中野以北も含め）を示している。

17. 堂ノ後 （どうのあと） 寺本 2・5

昆陽寺及び前述の猪名野神社の北におおうように接している三角形の形の地区である。昆陽寺が「行基堂」と呼ばれていた頃からこのようによばれていたものであろう。

18. 赤田 （あかだ） 寺本 5

さすがに、この村の小字名は宗教に関する地名が多い。この地の「赤」も「6. 関伽井」に通じると思われる。（赤関連： 昆陽字赤所、中野字赤塚）

19. 古開地 （こがいち） 寺本 2・5

現在、ほとんどが変電所になっている。西側を前述の行基道が通っている。その道路と昆陽寺の東から池尻に向かう道との交差点の北東にある、西本氏宅の前に庚申の碑がある。

20. 越シ前 （こしまえ） 寺本 6

比較的広い地域である。南・東は広い道になっているが、北西は池尻と複雑に入り込んでいる。そのあたりに池尻・山田および当寺本村の三村の入会墓地がある。（しかし、山田の葬儀の人は前述の「行基道は通らせてもらえなかった」という。）池尻の飛び地「墓ノ前」「墓ノ東」あり。竹生地 2 畝 3 歩あり。（関連 千僧字越前）

21. 掛水 （かけみず） 寺本 6・奥畑 2・3

北西から隣接する池尻字久陀満が入り込んでいる形になっている。また、池尻（久陀満・墓ノ東）、山田（妙慶）から飛び地あり。竹生地あり。桜塚と呼ばれる小祠あり。

22. 平町 （ひらまち） 寺本 4・5

比較的広い地域である。東から昆陽字中ノ宮が入り込み、さらにその「中ノ宮」の飛び地がある。

23. 新田之本 （しんでんのもと） 寺本 4・5

24. 藏ノ開地 （くらのかいち） 寺本 4

現在、都市整備機構の南西四分の一をしめている。北東に比較的大きい飛び地があるが、これも、同都市整備機構の一部になっている。

25. 丑廻し （うしまわし） 寺本 4・昆陽北 1

北・北東・南の 3 方をそれぞれ、昆陽地先の「沢」「宮東」「中ノ宮」に囲まれているが、それらと入り組んだものとなっている。昆陽（宮東・黒田）の飛び地あり。現在、北半分は電線メーカー。南は都市整備機構となっている。

26. 深溝 （ふかみぞ） 寺本 5・昆陽北 1

自然地名と考えられ、深い溝があったのであろう。（地目山林あり）現在、西半分は電線メーカーとなっている。

27. 狐塚 （きつねづか） 寺本 5・昆陽北 1

県道寺本・川西線の東に沿ってあり、飛び出た感じの部分を除いた部分はほとんど、地目「畑地」の飛び地（山田字妙慶・池尻字久陀満）である。塚は確認できないが地目に「林」あり。

28. 奥畑（おくはた） 松ヶ丘3・4・奥畑1～3

集落から続いている地区の最北部になる。当地区の北東は「昆陽字奥畑」、西には「池尻字東奥畑」という同様の地名が並んでいる。当地区はその名の通り、「畑地」である。ただ、北部、東西にベルト状に草生地がある。また、山田字妙慶の飛び地が3か所ある。（当村と山田とは南部で隣接しているが、この地は当村の最北部である）昭和28年11月17日に、昆陽字奥畑、中野字中赤塚・東赤塚・下野墓西が区画整理され、新しく「松ヶ丘」が誕生した。この地区は「松」が多かったと言われている。南西の一部は伊丹西高等学校になっている。

29. 池田（いけだ） 中野西1・奥畑3・5・松ヶ丘1

昆陽・中野の飛び地に挟まれている、飛び地である。現在は天神川から南の産業機械メーカーのクラブハウスになっている。しかし、少し前は、天神川とその南にあった「玉田川」に挟まれたあたりで、さらに古くは「昆陽下池」があったかもしれない。この地は「昆陽下池の水利」の権利関係から飛び地になったのではないだろうか。この地を北及び東西の三方に昆陽の飛び地があり、同様なことが思料される。

30. 野末（のずえ） 寺本3・6・池尻1・2

この地も、宗教的地名と思われる。不思議なことは、この「野末」は13カ所となっているが、すべて池尻との境界付近や、南の昆陽地先の飛び地となっている。

（飛地関連 昆陽字牛並戸・天津字高木・荒牧字野ノ口・荻野字野ノ口・山田字妙慶）

（野末関連 千僧字野末・昆陽字野添・荻野字野添・荒牧字野ノ口・荻野字野ノ口）

<寺本村の年表>

945（天慶8年）	志多羅神の神輿が昆陽寺に届く
1180（治承4年）	平維盛ら平氏の大军が福原から東上、昆陽野に宿営
1184（寿永3年）	源範頼が率いる源氏の大军が昆陽野を発し、生田森に陣取る平氏と戦う。
1212（建暦2年）	藤原定家が有馬からの帰路小林荘から武庫川を渡り、昆陽野を通過して神崎へ向かう。（往路は神崎-昆陽池-有馬）
1221（承久元年）	後鳥羽院が隠岐へ流される途中、西国街道を通る。
1326（嘉暦元年）	僧慶瑜が、昆陽寺の鐘（2代目）を铸造する。
1332（元弘2年）	後醍醐天皇が隠岐へ流される途中、西国街道を通る。 安養院領小屋荘が収公される。
1333（元弘3年）	六波羅勢と赤松則村とが昆陽野あたりで激しく戦う。後醍醐天皇が西国街道を通り帰京する。 榎尾西明寺の浄宝上人が、楠木正成の昆陽寺荘所務を改易し、元通り西半分を安養院領、東半分を西明寺領とするよう訴える。

1336 (建武 3 年)	足利尊氏軍と新田義貞軍とが豊島河原や湊川で激しく戦う。尊氏は西宮を経て入京する。尊氏が収公されていた安養院領を元通り安堵する。
1341 (暦応 4 年)	幕府が東寺塔婆修造料所として昆陽寺莊を寄進する。
1343 (康永 2 年)	幕府が東寺灌頂院の大修理のため、昆陽寺莊を寄進する。
1346 (貞和 2 年)	足利直義が安養院領昆陽寺莊に殺生狼藉することを禁じる。
1348 (貞和 4 年)	足利直義が、東寺四面の築垣の修理料として昆陽庄請料 1700 貫を寄付する。
1351 (観応 2 年)	足利尊氏が打出浜で弟直義と戦って敗れ、西国街道を通り上洛する。高師直・師泰兄弟が武庫川を過ぎたところで殺される。
1352 (観応 3 年)	河井右衛門三郎・釜谷五郎左衛門尉が安養院領昆陽寺莊西方の所務を妨げる。
1354 (文和 3 年)	足利尊氏が昆陽寺西莊に禁制を出す。「土民ら、寺命に従」
1358 (延文 3 年)	昆陽寺莊西方笠池平次郎名が安養院領であるとの御教書が出される。(以後度々出される)
1384 (至徳元年)	田能大和入道藏周が昆陽寺莊西方笠池平次郎名に乱妨する。
1412 (応永 19 年)	昆陽寺の僧・衡秀が大宝積経を書写する。
1419 (応永 26 年)	朝鮮回礼僧希璟が兵庫から陸路上京する。
1437 (永享 9 年)	雲頂院領昆陽寺について押領・違乱があったらしい。
1460 (長祿 4 年)	真連が昆陽寺東方内蓮華王院米を東禅院に寄進する。
1466 (文正元年)	雲頂院領昆陽寺を高野安養院が違乱する。
1486 (文明 18 年)	妙法院が昆陽寺東方内蓮華王院米を押領する。
1490 (延徳 2 年)	雲頂院領昆陽寺西庄について、高野安養院との争いが起きる。昆陽寺コンニャクが贈答用に使われる。
1491 (延徳 3 年)	蔭涼軒主が「昆陽院縁起」を見る。
1504 (永正元年)	三条西実隆が「昆陽寺勸進帳」を清書する。
1534 (天文 3 年)	三好政長・伊丹衆・池田衆と三好利長・一揆衆との合戦で昆陽莊が焼ける。
1578 (天正 6 年)	寺本一乗院の一石五輪塔が造られる。
1594 (文祿 3 年)	片桐且元を奉行に寺本村で検地が行われる。
1596～1615	寺本村が直領となる。

(慶長年間)	
1605(慶長10年)	「摂津国絵図」に寺本村が行基村と記される。
1615(元和元年)	寺本村438石余はこのころまで豊臣氏領で片桐貞隆の預かり地であった。
1617(元和3年)	昆陽寺の鐘(3代目)が鑄造される。
1645(正保2年)	「摂津国絵図」によれば、寺本村は東・中・西の3つに分れ、村高もそれぞれ179石余・98石余・160石余と記される。
1654(承応3年)	寺本一乗院の庫裏が建てられる。
1677(延宝5年)	寺本村が検地を受ける。新検高483石余
1686(貞享3年)	寺本村が武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)の所領となる。
1688(元禄元年)	寺本村正覚院の薬医門が建てられる。
1713(称徳3年)	西野の芝間を巡り、昆陽井郷と新田中野村が争う。
1716(正徳6年)	このころ東寺本村に江戸積み酒造家がいた。
1748(延享4年)	池尻の蟬齋らの発起により「昆陽池集」ができ、昆陽寺などに奉納される。
1753(宝暦3年)	寺本村一乗院の本堂が建てられる。
1757(宝暦7年)	池尻・寺本・山田など28カ村が伊子志井3カ村の新樋を訴える。
1760(宝暦10年)	昆陽寺の鐘(4代目)が鑄造される。
1782(天明2年)	福山藩が金1500両の担保として、寺本村の年貢米や庄屋の居屋敷を当てる。
1790(寛政2年)	寺本・山田など58カ村が肥料の高値について訴える。
1792(寛政4年)	寺本村の前田宗閑が、調達により領主から家作銀5貫目を賜る。
1794(寛政6年)	肥料高値に関する694カ村の訴えが起きる(池尻・寺本も代表として参加)。池尻・寺本・山田など21カ村が奉公人の給銀について協定を結ぶ。
1805(文化2年)	昆陽・寺本・池尻3カ村が昆陽池堤普請の件で大鹿村を訴える。(文政元年和談)。
1808(文化5年)	伊能忠敬が昆陽村を出発し、寺本・山田を経て西宮・兵庫に至る。(翌年も通過)
1821(文政4年)	夏目甕磨が昆陽寺正覚院に寄寓し「七月の記」を書く。(翌年没す)

1823（文政6年）	寺本村が直領に戻る。
1831（天保2年）	南刀根山村のお蔭踊りが寺本村にもやってくる。
1837（天保8年） 1838（天保9年）	加納諸平が父・夏目甕磨の墓に詣でる。 //
1840（天保11年）	寺本村が高槻藩永井氏の預かり地となる。
1846（弘化3年）	加納諸平が伴林光平を伴って、父の墓に詣でる。
1848～54 （嘉永年間）	昆陽寺行基堂に算額が奉納される。
1850（嘉永3年）	寺本村の妙見道標が造られる。
1852（嘉永5年）	寺本村の「西の宮通り抜け道あり」の道標が造られる。

（文責：足立繁）